

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201627		
法人名	株式会社ケア・グループ		
事業所名	グループホーム花丘		
所在地	高崎市南大類町1307-6		
自己評価作成日	令和6年3月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和6年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念に基づき、職員一丸となって、利用者様やご家族に寄り添い、安全を第一に考え安心して穏やかに生活できる様、支援させて頂いています。また、専門スタッフによる手作りの食事で、季節を感じて頂ける様工夫をして調理し提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

避難訓練は、車椅子利用の方も他の利用者と一緒に避難場所への避難を行うなど、実践を意識した訓練となっている。申し送りでは、現状の課題を把握し検討することで、職員各々の今の業務状況の確認ができ、職員同士の協力しあえる体制づくりを図っている。入浴できない利用者へは木酢液を利用して足のマッサージを行い、足の清拭や爪切り等のフットケアを行うことで、清潔保持やコミュニケーションの機会となっている。毎月模造紙を利用した「手作りカレンダー」を作成し、利用者が今日が何日か確認できるようにその日をピンで止めた赤枠で囲い、「今日は何日か」と利用者に関心かける工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り後、職員で唱和を行い、実践できる様心掛けています。	理念を、毎朝、夜勤者と日勤者・調理職員で唱和している。また、毎朝、事例を掘り下げて議論しアセスメントしている。利用者には何事も強制せず家庭のように自由に過ごせるよう心がけ、近隣の方々との触れ合う機会を大切にしている。	理念の言葉の意味を話し合い、掘り下げる機会づくりなどにより、共有がさらに図れることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生の体験学習を受け入れ、交流しています。	散歩をしていると、近隣の方から声をかけていただき、冗談が弾むこともある。野菜などをいただいたり、施設のパンフレットが欲しいと来訪されたり、日常的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で民生委員の方々に出席して頂き情報交換を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内で提案して頂いた意見を共有し、各ご利用者様の家族にもお便りとして送らせて頂いています。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。構成メンバーは、家族は3人ずつ交替で、民生委員、長寿センター・安心センター職員である。議題は行事報告等で、事業所の取り組みを知ってもらうことで協力関係を築きたいと考えている。議事録は、参加者のみに配布にしている。	より双方向的な会議となるよう、会議内容や会議結果を伝える方法などの検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携	感染症情報などを高齢者あんしんセンターの方等と情報交換を行っています。	介護保険などの報告や変更があったりした場合や、困った時は窓口を直接訪問して相談するなど、課題解決に向けて市との連携を大切にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての施設内研修を行い、職員間に周知徹底し、身体拘束の無いケアを実践しています。	拘束について施設内研修を2ヶ月に1回、法人で作成した資料をもとに行っている。管理者は業務の中で、拘束と疑わしい事例は「しないケア」に向けて指導している。呼称は尊厳を大切に、苗字で呼ぶことを統一している。帰宅願望者がいるため、玄関の施錠は今後の検討課題としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で研修を行い、職員同士互いに虐待について話し合いの場を設け、防止に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在、成年後見人制度を利用されている方がおりますので、実際に業務の中で学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行い、ご家族からの疑問点について、その都度対処し、内容変更などは速やかに書面や来所時に説明させて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や運営推進会議等で提案された事や要望などは、ご家族に書面にてお伝えし、随時対応しています。	イベントなどの際の写真を家族が見えた時に渡したり、手紙を添えて利用者の状況を報告したりして、安心してもらえるような対応に努めている。	運営に関する事柄を具体的に提案できるような機会づくりにより、意見を運営に反映できることに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で行われますが、代表者の来所時にも疑問や問題点などについて意見交換をしています。	職員会議は毎月1回実施し、利用者の状況や運営推進会議での家族の意見等も話し合わせ、職員間での情報の共有が図られている。職員から、化学モップで清掃することで、ほこり対策と共に迅速に清掃作業が完了することが提案され、即実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働ける環境や条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に研修を受ける機会や環境を整え、積極的に取り組めるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会組織のネットワークの中で、相互訪問や勉強会に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に、ご家族やご本人からの要望や不安等について充分話し合い、利用者様にあった最良のサービスやケアが出来る様に努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後、ご家族がどのような生活を希望されているか、どのような不安を感じているのかを話し合う様にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の不安や要望に今何が一番必要なのかを相談しながら見極めて、サービスやケアの内容に活かしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に対し、職員の家族という思いで、介助や支援をさせて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内での様子を、写真付きのお便りで、毎月ご家族にお知らせしています。また、来所時には、日々の様子などを丁寧にお伝えする様にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が今まで大切にしてきた物や写真などを身近に置き、ご家族との大切な思い出を話題にしながら支援しています。	馴染みの場所に出かけたり、花見や初詣など四季折々の場所に出かける機会もあり、昔のことが懐かしくよみがえる支援に努めている。最近では高齢化と共に個別の馴染みの継続支援が難しくなり、特に家族との繋がりを大切にしたい関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールに集えるような環境を整え、一人で居室で過ごされる事の無いよう、お声掛けさせて頂いています。また、利用者様同士で助け合う場面も見受けられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も転居先へ訪問し、様子を伺いに行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様に希望や意向を伺い支援に活かしています。意思表示が難しい方には、ご家族に伺ったり、カンファレンスで話し合い把握に努めています。	カンファレンスで、利用者が何を望んでいるかを話し合っている。表情や会話の中から把握することに努め、事業所での生活はどうか定期的に伺っている。食事中も表情や様子を観察し、その方のその時々状況を見極め、幅広くその日の個々の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表を基に、ご本人様の生活史や生活習慣を伺い、経過に応じたサービスを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活内容が分かるチェック表があり、水分、食事摂取量、排尿や排便、内服等の現状把握ができる様になっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議時にカンファレンスを行い、ケアプランを作成し、現状に応じたモニタリングをし、変化があった時には見直しを行っています。	ケアマネージャーは情報収集し、アセスメントをするとともに、本人・家族の希望等を聞いて、暫定的なプランを作成し、家族に内容確認後、カンファレンスを行い、プランの確定としている。	各種記録がプランに繋がる一貫した記録となるよう検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノートを利用し、職員全員で情報を共有し見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意見を踏まえ、職員間で話し合い、支援の創意工夫に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の方や近くの店舗などに情報を頂き、支援の協力を求め、安全に生活できるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	複数の病院やクリニックと提携しており、その時の病状に対応した医療が受けられるよう支援しています。	月に2回訪問診療があり、利用者全員が受診している。訪問診療時は協力医が看護師を帯同し、日常生活の状況についても相談ができる関係性を築いている。他科への通院は、家族に職員が付き添い、適切な医療が受けやすい支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の往診時に医師の診察を受け、変化があった場合、速やかな対応を心掛けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、担当看護師やケースワーカーなどと連絡を取り合い、入院先に出向き、情報交換や相談をし、利用者様が安心して治療を受けられる様にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化をした場合に関しては、ご家族様と相談を行い決定します。	家族へは看取りについて、当初から行えない旨を説明していることから、口から食事が入らない状況になると入院する体制をとっている。複数の医療機関と提携し、適切な医療が受けられる支援を行っているが、今後は家族の希望等もあり、チームでの看取りケアを検討課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを提示し、講習会や研修等、積極的に受講できるような環境を作り、定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主避難訓練や消防署指導の下、消火訓練も定期的に行い、スプリンクラーや自動通報装置、警報装置などの設備も完備しています。また、地域の方々にも協力をお願いしています。	夜間と日中を想定して、年2回避難訓練を実施している。訓練時の避難場所は、事業所の庭としている。歩行困難な方が多いため、法人内の3施設に避難を依頼する予定を立てている。地域の方には避難訓練実施をお知らせしているが、参加依頼に至っていない。	災害対策は地域との協力体制が重要であり、地域の方の協力をしていただけるよう検討することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりに合った対応、言葉掛けを心掛けています。	相手が受け入れてくれるような関わり方をするようにしている。利用者の前では職員間の情報交換は避けることや、特におむつ交換や入浴などでは常に羞恥心に配慮して、一言声をかけて誘導して、拒否をする方にはタイミングを見ながら働きかけて、一人ひとりを尊重した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援・介助させて頂くときには、常にご本人様に確認をし、言葉の出ない方には、表情や思いを深く探る様努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室、食堂、ホールと、いつでもご自分の居たい場所でくつろいでいただける様、心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容はもちろん、美容師による出張カット・整髪などを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使った食事を、利用者様ごとに摂取しやすい状態にし、職員と一緒に楽しく召し上がっていただいています。行事食なども用意しています。	専任の調理スタッフが3人在勤していて、1ヶ月のメニューを作成し、利用者の好みを考慮して調理している。ペーストや刻み食等、利用者に合わせて食事を提供している。職員も食事介助をしながら、同一のものを食して支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食、刻み食、ミキサー食、お粥など、一人ひとりの状態に合わせ、水分も時間を決めて摂っていただくよう配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝の起床時や毎食後に、口腔ケアをして頂き(介助、一部介助)、夜間は義歯をお預かりし消毒を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを職員全員が把握し、その状態に合わせ声掛けや介助を行っています。	1日中おむつの使用者はおらず、日中は車椅子利用の方も立位でのトイレでの排泄に向けて誘導し、身体機能に応じた自立排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	整腸剤なども服用しながら、運動、繊維質の多い食品を摂りながら、リラックスし、笑って過ごして頂ける様努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本午前中ですが、タイミングが合わない時には、希望に応じて夜間以外での入浴に対応しています。	週2回職員と1対1で脱衣から入浴までゆつくりと、日常生活動作を保ちつつ介助し、楽しく会話をしながら支援をしている。入浴日でない方には、毎朝、木酢液を利用してフットケアや爪切りなどを行い、きめの細かい個々に合わせた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転のない様、昼間はきちんと離床し、みなさんで過ごして頂き、午睡の時間を作り休息できるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとに服用している薬の内容を主治医と相談の上、症状の変化に注意を払い、内服できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみのお手伝いやレクリエーションで運動や歌、ぬり絵などを行い気分転換をして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、敷地内の散歩をしたり、ご家族と外出される場合もあります。	日々の天候に合わせて、外気浴や敷地内の散歩を行っている。花が咲く頃には、利用者の思いを確認しながら外出支援を行っている。家族へはきめ細かい情報提供を行い、協力関係を築いている。家族の協力を得て、食事や自宅へ立ち寄るケースもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、お預かりはしていませんが、ご家族の要望でお預かりしている方もいます。事務所で保管し、領収書、出納長で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	固定電話の使用は可能です。手紙のやり取りが出来る方は、支援させて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に沿ったカレンダーを作成し掲示しています。各部屋、陽当たり良く穏やかに楽しめる様にしています。	食堂と居間があり、食卓テーブルは2卓でその間にパーテーションで仕切りがある。対面キッチンで、食事の支度を目や耳で感じることができる。壁にはイベントの写真が整理して飾られて、共有スペースは明るく、居心地よく過ごせるように支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビを観たり、パズル、将棋、ぬり絵など、自由にできる様になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、ご本人様やご家族に使い慣れた物を持参して頂くようお願いしています。	居室の備品はベット・クローゼットがあり、衣類を職員が整理している。布団・テレビ・仏壇等の馴染みのものが設えられている。家族の希望もふまえての居室づくりを職員も協力して行い、移動は希望時に対応を検討して、生活しやすい環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレなど大きな字で分かりやすく表示してあります。安全面を考え、環境整備をし、生活支援をしています。		